

1 研究主題

子ども一人一人が夢中になる体育学習の在り方
～「分かる・できる」を中心とした授業づくりを通して～

2 研究主題設定の理由

平成20年3月に新学習指導要領が告示され、平成23年度より完全実施となった。体育科においては、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて指導することができるようにするとともに、発達の段階に応じて子どもに身に付けさせたい具体的な内容が明確に示され体系化が図られている。そこで、これらの具体的な動きや技をできる喜びを子どもたちに十分に味わわせる学習指導が課題になっている。また、運動する子どもとそうでない子どもの二極化の傾向や子どもの体力低下傾向が依然深刻な問題となっていることから、体力の向上を重視するとともに学習したことを家庭で生かすことができるような指導の在り方も課題である。

本校は鹿児島市の中心部に位置し、校区内に官公庁や文化施設などが多数あり、文化的・社会的な体験活動をするのに恵まれた環境にあるが、体を動かして遊ぶ場所が少ないといった問題がある。また、スポーツ少年団活動などで体力づくりに取り組んでいる子どももいるが、習い事・塾などに通っている子どもも多く、遊ぶ時間や仲間が少ないという問題もある。

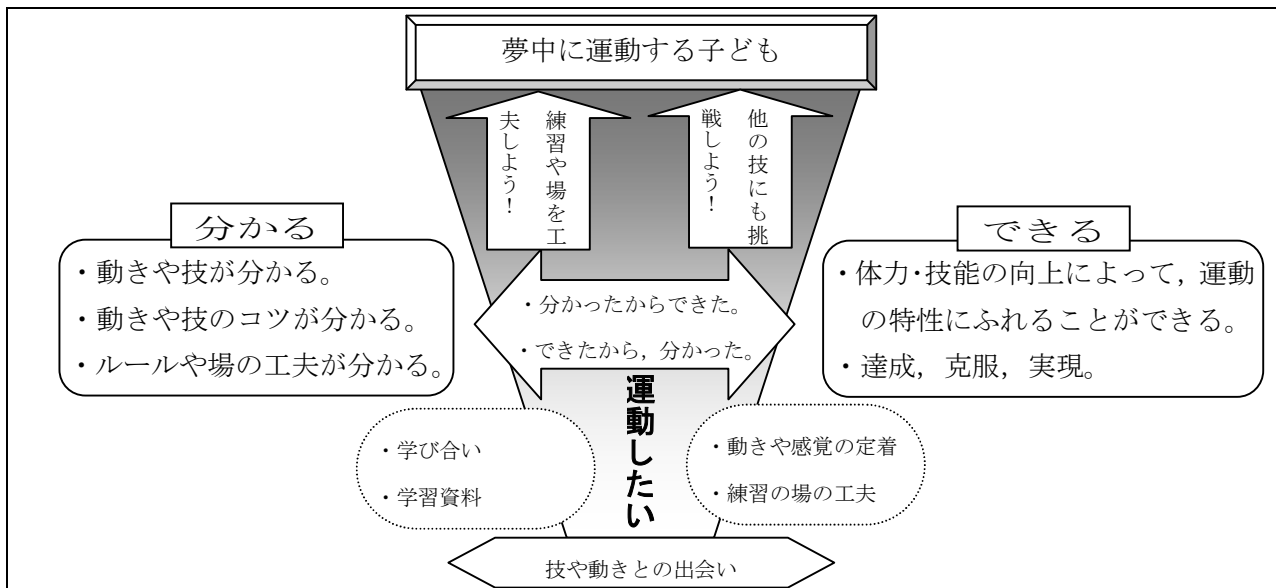
そこで、授業を中で友だちとかかわりながら、技のコツを発見した喜びや新しい技ができるようになるなど、「分かる・できる」を中心とした授業づくりを工夫すれば、子ども一人一人が夢中になる体育学習になるのではないかと考えた。そして、そのことが体育好きの子どもを育て、休み時間に積極的に運動する子どもが増え、体力の向上にもつながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

3 研究主題について

(1) 「夢中になる」とは、次のように、子ども自身が主体的にかかわることであると考える。

- ア 運動することや体力・技能が高まる楽しさや喜びを十分味わうこと
- イ 運動することを通して、友だちと仲よくかかわる（共に動く、教え合う）こと
- ウ 自己の課題を知り、筋道を立てて練習の方法や場の工夫、作戦を考えること

(2) 「分かる・できる」とは



4 本研究の研究領域と内容

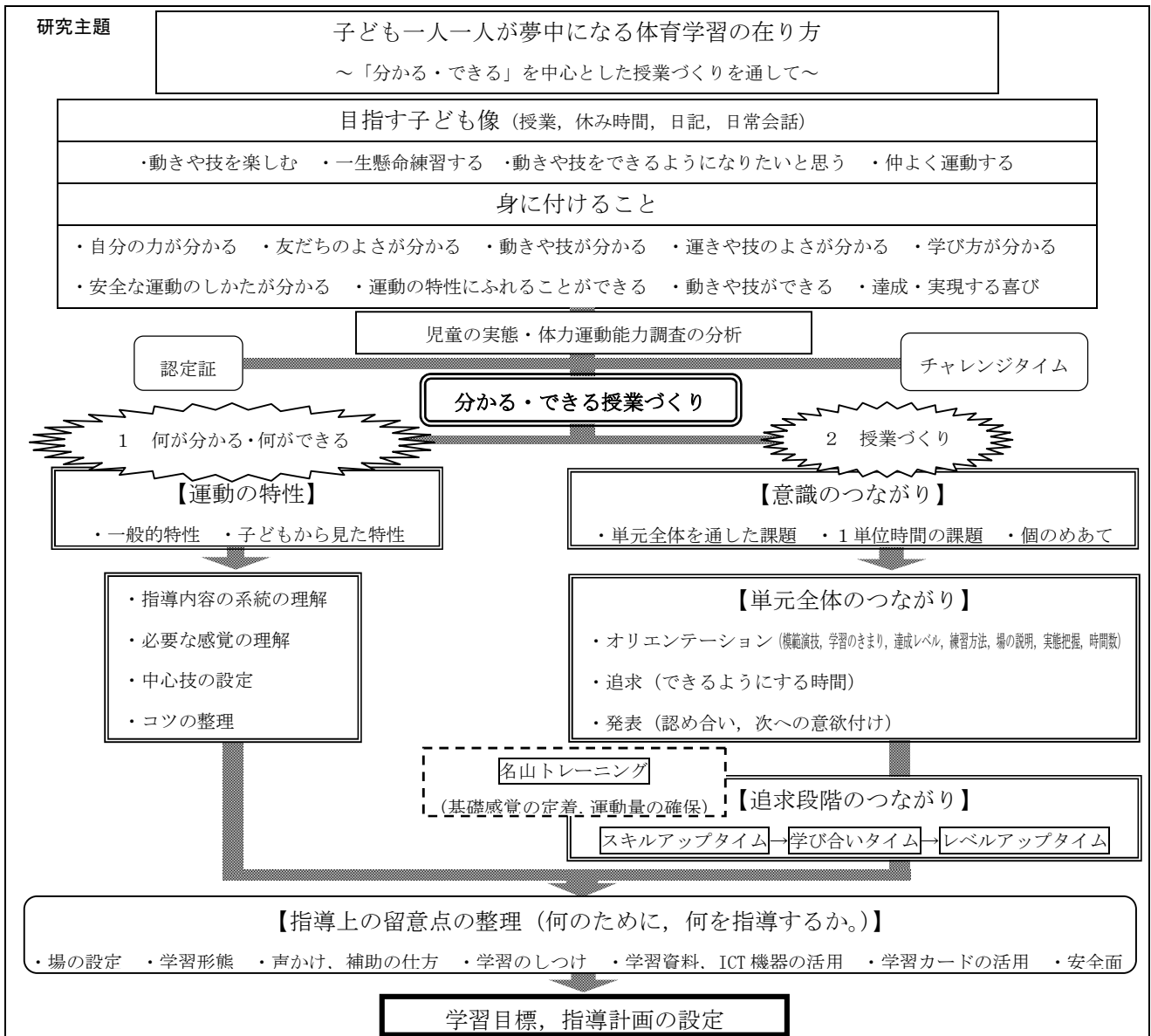
本研究は、「器械・器具を使つての運動遊び」「器械運動」領域に絞って進めていく。

| 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 |
|------------------|--------|-------|
| 【器械・器具を使つての運動遊び】 | 【器械運動】 | |
| 固定施設を使った運動遊び | | |
| マットを使った運動遊び | マット運動 | マット運動 |
| 鉄棒を使った運動遊び | 鉄棒運動 | 鉄棒運動 |
| 跳び箱を使った運動遊び | 跳び箱運動 | 跳び箱運動 |

5 研究の視点

- (1) 動きや技に必要な感覚や特性を明らかにし、本校で取り組む中心となる技を設定する。
- (2) 児童の意識のつながりを考慮し、楽しさや喜びを味わうことのできる授業づくりを実践する。

6 研究の構想



7 研究の実際

(1) 器械運動系の運動の特性

ア 一般的特性

非日常的な運動に挑戦して、できなかったことができるようになることで楽しさ・喜びを味わうことができる。また、条件を変えてできるようになったり、より上手にできるようになったりするときにも楽しさ・喜びを味わうことができる。

イ 子どもから見た特性

(ア) マット運動

マット運動は、できない技ができるようになることに楽しさがある。また、技自体の課題を部分的に変えて挑戦したり、連続技に挑戦したりする楽しさもある。さらに、集団で調子を合わせて演技をする楽しさを広げることができる。

しかし、マット運動は「できる」「できない」がはっきりしているので、「できない」ことから劣等感を感じ、意欲が低下する子どももいる。

(イ) 鉄棒運動

鉄棒運動は、できない技ができるようになることに楽しさがある。また、できるようになった技を続けて行ったり、高い鉄棒に挑戦したりする楽しさもある。

しかし、鉄棒から落下するのではないかという恐怖心や、手のひらや膝の裏などへの痛みから意欲が失われやすい運動でもある。また、基礎的な感覚が身についていないと、思うように体を動かさないので、技の習得に時間がかかったり、できなかったりすることで意欲が低下する子どももいる。

(ウ) 跳び箱運動

跳び箱運動は、できない技ができるようになることに楽しさがある。また、跳び箱の高さや向きを変えて挑戦したり、ペアやグループで動きをそろえて演技をしたりする楽しさもある。さらに、よりダイナミックな技に取り組んだり、雄大で美しい動きができるようになったりすることで楽しさを広げることができる。

しかし、繰り返し練習しても技能が向上せず、あきらめてしまう子どもがいる。また、跳び箱にぶつかったり、落下したりする恐怖心から意欲が低下する子どももいる。

(エ) 固定施設を使つての運動遊び

いろいろな動きに楽しく取り組んで、自分の力にふさわしい動きを身に付けたとき楽しさを味わうことができる運動である。

しかし、運動経験の不足から動きを身に付けることができずに、意欲的に運動に取り組めない子どももいる。また、逆さになったり、高いところに上ったりすることに恐怖心があり、意欲が低下する子どももいる。

(2) 必要な基礎感覚と運動例

器械運動は、非日常的な運動であるため、技ができるようになるためには、その基礎となる特殊な力や感覚を身に付けておく必要がある。これを、類似の運動（運動のアナログン）によって習得させておけば、初めて技に挑戦する場合でもできそうな気になるものであり、また、すぐできるようになることが多い。器械運動で経験させておきたい基礎感覚と運動の例には次のようなものがある。

| | 基礎的な力・感覚 | 運動例（アナログン） |
|-------|--|---|
| マット運動 | ① 支持感覚 ② 接転感覚 ③ 倒立感覚 ④ 締め感覚 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 手足走り，手押し車，うさぎ跳び ・ ゆりかご，大きなゆりかご，背支持倒立から大きなゆりかご ・ かえるの足打ち，壁登り逆立ち，壁倒立，ブリッジ ・ アンテナ，手押し車，石の地蔵さん，人運び ※ 体の締め感覚…背筋や腹筋を緊張させ体を1つにまとめる感覚。 |
| 鉄棒運動 | ① 振動感覚 ② 回転感覚 （倒立感覚） ③ 支持感覚 （体の締め感覚） | <ul style="list-style-type: none"> ・ ブランコ，雲底，大波小波，振り跳び下り，片膝かけ振動 ・ ふとんほし，こうもり手着き下り，こうもりじゃんけん連続回り下り，足抜き回り ・ ツバメ，振り上げ足打ち，後方跳び下り，手押し車，登り棒ダンゴ虫 |
| 跳び箱運動 | ① 踏み切り感覚 ② 支持感覚 ③ 体重移動感覚 ④ 体の投げ出し感覚 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ケンパー，ケンゲー，グリコじゃんけん大また跳び ・ 手足走り，手押し車，トント前転 ・ タイヤ跳び，馬跳び，平均台腕支持渡り 台上からの腕支持跳び出し ・ うさぎ跳び，うさぎ跳び乗り |

(3) 中心技の設定

日頃、「器械運動」を指導する中で，次のような問題点が出された。

- ・ 技が多すぎて，指導の重点化が図れない。
- ・ どの学年で指導すればよいのか分かりにくい。
- ・ 児童にやらせっぱなしになってしまう。
- ・ 技を段階的（易→難）に指導しにくい。
- ・ 場作りに時間がかかりすぎてしまう。
- ・ 場が多くなり，安全面に不安がある。

そこで，該当学年で指導する技や動きを，難易度や指導時数を考慮し，実践を通して，技の系統表として整理した。そして，指導する技を次のように分類して，技や動きの指導の重点化を図った。

- ◎中心技→全ての児童が身につけることができるようにする技
- 類似技→同レベルの技及び技を身に付けるために必要な動き
（中心技ではない，例示にある技）
- ☆発展技→中心技ができた児童が取り組む技，次学年以降に学習する技

「固定施設を使った運動遊び」動きの系統表
(◎中心技 ○類似技 ☆発展技)

| 固定施設 | 1 年 | 2 年 |
|---------|-------------------------|-------------------------|
| ジャングルジム | ◎登り下り ☆渡り歩き ☆逆さ姿勢 | ◎逆さ姿勢 ◎渡り歩き |
| 波形雲梯 | ◎懸垂移行 ☆渡り歩き | ◎渡り歩き |
| 登り棒 | ◎登り下り ☆逆さ姿勢 | ◎逆さ姿勢 ☆手登り ☆2本手登り |
| 肋木 | ◎登り下り ☆懸垂移行 | ◎懸垂移行 |
| 平均台 | ◎渡り歩き ◎跳び下り | ◎跳び越し |
| タイヤ跳び | | ◎またぎ跳び ○バランス |

「マット運動」技の系統表 (◎中心技 ○類似技 ☆発展技)

| 系 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 |
|--------------|---|---|----------------------|--------------------------------|--|---|
| 回転技 | ◎ゆりかご ◎前転がり ◎丸太転がり ○だるま回り | ◎後ろ転がり ○半回転ジャンプ | ◎前転 ◎後転 ☆大きな前転 | ◎前転 ◎後転 ☆開脚前転 ☆開脚後転 | ◎安定した前転 ◎大きな前転 ◎安定した後転 ☆倒立前転 ☆跳び前転 | ◎開脚前転 ◎開脚後転 ☆伸膝後転 |
| 倒立技 | ◎背支持倒立 ◎かえるの足打ち ○つりばし ○ブリッジ ☆うさぎの足打ち ☆壁登り逆立ち | ◎壁登り逆立ち ◎支持での川跳び ○ブリッジ ○タワー ○つりばし ○水平バランス ☆壁倒立 ☆大きな川跳び | ◎腕立て横跳び越し ☆側方倒立回転 | ◎壁倒立 ☆補助倒立 ☆頭倒立 ☆ブリッジ | ◎安定した壁倒立 ◎ブリッジ ◎安定した腕立て横跳び越し ☆倒立ブリッジ ☆側方倒立回転 | ◎補助倒立 ◎頭倒立 ◎側方倒立回転 ☆倒立 ☆ロンダート |
| 技の組み 合わせ方 | | | | | ◎ジャンプ | ◎バランス |

「鉄棒運動」技の系統表 (◎中心技 ○類似技 ☆発展技)

| 系 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 |
|--------------|--|---|-------------------------------|--|---|---|
| 上がり技 | ◎跳び上がり ◎跳び下り ◎前回り下り ○ふとんほし | ◎足ぬきまわり (前後) ○つばめふり ○地球回り | ◎補助逆上がり ○膝掛け振り上がり ☆逆上がり | ◎補助逆上がり ○膝掛け振り上がり ☆逆上がり ☆膝掛け上がり | ◎安定した補助逆上がり ○安定した膝掛け振り上がり ☆逆上がり | ◎逆上がり ○膝掛け上がり ☆もも掛け上がり |
| 支持回転 | ○ぶら下がり ○ターザンふり ○ひざかけふり ○だるまふり | ○後ろ振り下り ☆補助逆上がり ☆かかえ込み回り ☆後ろ振り下り | ◎かかえ込み回り ☆後方支持回転 | ◎後方片膝かけ回転 ☆後方支持回転 ☆前方支持回転 ☆前方片膝かけ回転 | ◎安定したかかえ込み回り ◎後方支持回転 ○安定した後方片膝かけ回 ☆前方支持回転 | ◎前方支持回転 ○前方片膝かけ回転 |
| 下り技 | ○おさるさん ○こうもり ○こうもりふり ○おさるふり ○つばめ ☆後ろ振り下り ☆地球回り | (ひねり) | ◎前回り下り ☆転向前下り ☆両膝掛け倒立下り | ◎転向前下り ◎両膝掛け倒立下り ☆片踏み越し下り ☆両膝掛け振動下り | ◎安定した前回り下り ◎安定した転向前下り ◎片足踏み越し下り | ◎安定した両膝掛け倒立下り ◎両膝かけ振動下り |
| 技の組み 合わせ方 | | ※できるようになっ た技をつなげる。 | ※できるようになっ た技をつなげる。 | ※できるようになっ た技をつなげる。 | ◎上に示した技の上がり技、支持 回転技、下り技やすでにでき ている技を選んで組み合わせる。 | ◎上に示した技の上がり技、支持 回転技、下り技やすでにでき ている技を選んで組み合わせる。 |

「跳び箱運動」技の系統表 (◎中心技 ○類似技 ☆発展技)

| 系 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 4 年 | 5 年 | 6 年 |
|---------|--|--|------------------|------------------------------|----------------------------------|------------------------------|
| 切り返し系の技 | ◎支持でまたぎ乗り ◎支持でまたぎ下り ◎支持で跳び乗り ◎支持で跳び下り ◎踏み越し跳び ○両足着地 ○キック下り ○手たたき ○ひねり下り ○踏み越し下り ☆馬跳び | ◎支持でまたぎ乗り ◎支持でまたぎ下り ◎支持で跳び乗り ◎支持で跳び下り ◎馬跳び ◎タイヤ跳び ○遠くへ踏み越し乗り ○体を小さく踏み越し下り ○体をそらして踏み越し下り ○体をひねる踏み越し下り ☆開脚跳び | ◎開脚跳び ☆抱え込み跳び | ◎開脚跳び ☆抱え込み跳び ☆大きな開脚跳び | ◎安定した開脚跳び ○抱え込み跳び ☆大きな開脚跳び | ◎大きな開脚跳び ◎抱え込み跳び |
| 回転系の技 | | | ◎台上前転 | ◎台上前転 ☆大きな台上前転 | ◎安定した台上前転 ☆大きな台上前転 | ◎大きな台上前転 ☆首はね跳び ☆頭はね跳び |

(4) 児童の意識のつながり ～3年生「跳び箱運動」より～

「今もっている力」から「工夫した力」へとスパイラル型の学習過程で指導計画を作成した。

| 1 時間の流れ | 追 求 | | | 7 発表会 |
|------------|--|---|--|--|
| | 1 オリエンテーション | 5 回転系の技 | 6 回転系の技 | |
| 1はじめのあいさつ | <p>【単元全体の課題】</p> <p>跳び箱運動の技や進め方を知り、学習のめあてを立てよう。</p> <p>◎跳び箱運動は、2つの技があるんだ。1つはできそうだ。</p> <p>◎あれくらい跳べるようになるといいのか。</p> <p>◎腕の力や踏み切りが上手になると跳べるんだ。</p> <p>◎跳び箱の並べ方や練習の方法が分かってきたぞ。</p> <p>◎けがをしないように気を付けることや跳び箱の運び方が分かったぞ。</p> <p>【児童の願い】</p> <p>5段の開脚跳び、台上前転ができるようになりたい。</p> | <p>【1時間の課題】</p> <p>台上前転の練習の場を考え、上手に回転するコツを見つけよう。</p> <p>【スキルアップタイム】</p> <p>◎ちょっとこわいから重ねたマットで前転の練習をしてみよう。</p> <p>◎腰を高く上げるとよさそうだ。</p> <p>◎おへそを見ながら回転するといいな。</p> <p>【学び合いタイム】</p> <p>◎助走のスピードと強い踏み切りが上手にできるコツなんだ。</p> <p>【レベルアップタイム】</p> <p>◎やった。2段ができた。自分のめあて達成だ。</p> <p>【振り返り】</p> <p>次は台上前転で跳び箱3段に挑戦したい。</p> | <p>【1時間の課題】</p> <p>台上前転をより高く、遠くに跳ぶことにチャレンジしよう。</p> <p>【スキルアップタイム】</p> <p>◎今日も跳び箱2段で、できるかな。</p> <p>◎跳び箱の上で前転するのは気持ちいいなあ。</p> <p>【学び合いタイム】</p> <p>◎○○さんの跳び方は、手や足がしっかりそろっているぞ。</p> <p>【レベルアップタイム】</p> <p>◎3段は、ちょっとこわいから、マットを敷いている跳び箱で練習しよう。</p> <p>◎3段の方が回転しやすいぞ。</p> <p>【振り返り】</p> <p>台上前転を跳び箱4段で発表したい。</p> | <p>【1時間の課題】</p> <p>できるようになった開脚跳び、台上前転を発表しよう。</p> <p>【スキルアップタイム】</p> <p>◎4段で台上前転するところをみんなに見てもらいたいから、がんばるぞ。</p> <p>◎開脚跳びは、5段をうまく跳べそうだ。</p> <p>【発表会】</p> <p>◎開脚跳びや台上前転が、みんなの前で成功した。</p> <p>◎友だちや先生にほめてもらえて、うれしい。</p> <p>◎○○さんのように跳んでみたいなあ。</p> <p>【単元全体の振り返り】</p> <p>できないと思っていた台上前転ができるようになって、跳び箱運動に自信がもてた。</p> |
| 2めあての確認 | | | | |
| 3準備運動 | | | | |
| 4名山トレーニング | | | | |
| 5スキルアップタイム | | | | |
| 6学び合いタイム | | | | |
| 7レベルアップタイム | | | | |
| 8整理運動 | | | | |
| 9学習のまとめ | | | | |
| 10おわりのあいさつ | | | | |

(5) 1 単位時間の学習の進め方

授業を進める中で、次のことを検証しながら実践を進めてきた。

- 児童の意識のつながりを考慮し、跳び箱運動の楽しさを味わうことのできる指導計画になっているか。
- 中心となる技の「コツが分かる」ようにする手立てや「技ができる」ようにするための運動の場の工夫は適切であったか。

ア 単元名 第3学年 「跳び箱運動」

イ 単元の目標

- ・ 開脚跳びや台上前転がきれいにできる。
- ・ 跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。
- ・ 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫している。

ウ 指導計画（全8時間）

| 3年生 単元名「跳び箱運動」 | | | | | | | | |
|----------------|--|--|---|---|---|--|--|---|
| 単元のねらい | ・基本的な姿勢で跳び箱し技ができる。(技能) ・跳び箱運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとする。(態度) ・自己の能力に適した課題をもち、技ができるようにするための活動を工夫している。(思考・判断) | | | | | | | |
| 1時間の流れ | 1 オリエンテーション | 2 切り返し系の技 | 3 切り返し系の技 | 4 切り返し系の技 | 5 切り返し系の技 | 6 回転系の技 | 7 回転系の技 | 8 発表会 |
| 1時間のねらい | 1 あいさつ | ○課題の確認 (VTR等の活用) 基本的な切り返し系の技を知り、上手に跳ぶコツを見つけよう。 | ○課題の確認 (VTR等の活用) 切り返し系の技で、今できる技をより上手にし、新しい技にも挑戦しよう。 | ○課題の確認 (VTR等の活用) 切り返し系の技で、今できる技をより上手にし、新しい技にも挑戦しよう。 | ○課題の確認 (VTR等の活用) 切り返し系の技で、今できる技をより上手にし、新しい技にも挑戦しよう。 | ○課題の確認 (VTR等の活用) 基本的な回転系の技を知り、上手に跳ぶコツを見つけよう。 | ○課題の確認 (VTR等の活用) できるようにになった回転系の技を、より上手に跳べるようになるよう。 | ○課題の確認 (VTR等の活用) できるようにになった切り返し系の技・回転系の技を発表しよう。 |
| 2時間のねらい | 2 見直しをもって学習できるように単元の計画やねらいを提示する。 跳び箱運動の技や進め方を知り、学習のめあてを立てよう。 | 【名山トレーニング】 ・ケンパ走り ・大走り ・あざらし ・タモ歩き ・ウサギ跳び ・馬越え30秒 ・半足走り ・手押し車 ・トントン歩幅 ・大また歩幅的転 ・かえるの足打ち ・かえるの倒立 ・壁登り倒立ち ・3点倒立 ・倒立ブリッジ など | | | | | | |
| 3時間のねらい | 3 準備運動 | | | | | | | |
| 4時間のねらい | 4 名山トレーニング | | | | | | | |
| 5時間のねらい | 5 自分でできる技の確認 ・器械・器具の使い方に ついて約束する。 (安全正) | 【スキルアップタイム】 今できる技を交し、より上手にできるようにする。(練習の場の選択、ペア・グループ学習) | | | | | | 【スキルアップタイム】 発表したい技ごとの練習をする。 |
| 6時間のねらい | 6 発表のねらい ・これまでに学習した技に取り組み、自分が今もっている力を確かめる。 | 【学びあいタイム】 上手な子の動きやVTRを見て、技のコツを確かめ合う。(両足踏み切り、着手、跳び越え、着地) | | | | | | 【発表のねらい】 発表したい技ごとの練習をする。 |
| 7時間のねらい | 7 学習のまとめ ・自分のめあての決定 ・後付けのねらいの確認 | 【レベルアップタイム】 自分の思いや能力に応じて技を選択し、挑戦する。(学習資料、VTR、技ごとのグループ) | | | | | | 【レベルアップタイム】 学習の結果を発表する。 ・お互いのがんばりや伸びを買贊す |
| 8時間のねらい | 8 あいさつ | ○学習のまとめ 本時の学習を振り返り、次の学習のめあてをもつ。(「小学生の体育」への記入、がんばったこと発表・賞賛) | | | | | | |
| 評価 | 態度 | 思考・判断 | 思考・判断 | 技能 | 技能 | 思考・判断 | 技能 | 技能 |

エ 本時の中心技（開脚跳び）の指導段階（4／8）

開脚跳びを指導する際、児童の動きや場を具体的に設定することで、指導に活かしてきた。

- ・ ステップ1 小さな跳び箱（横向き3段、縦向き3段）を、その場跳躍から開脚跳び
- ・ ステップ2 跳び箱（横向き4段、縦向き4段）を、助走から開脚跳び

- 踏み切り（足がそろっているか）
- 着手位置（手はそろえて、跳び箱の前方に着いているか）
- 着地（足をそろえ、ひざをやわらかく曲げて着地しているか）

- ステップ3 跳び箱（縦向き5段）を、助走から開脚跳び
（到達目標）
踏み切り（足がそろっているか）
着手位置（手はそろえて、跳び箱の前方に着いているか）
着地（足をそろえ、膝をやわらかく曲げて着地しているか）
- ステップ4 跳び箱（縦向き6段）を、助走から開脚跳び
踏み切り（足がそろっているか）
空中姿勢（膝が伸びているか）
着手位置（手はそろえて、跳び箱の前方に着いているか）
着地（できるだけ遠くに足をそろえ、膝をやわらかく曲げて着地しているか）
- ステップ5 跳び箱（縦向き6段、調整板40cm以上）を、助走から大きな開脚跳び
- ステップ6 跳び箱（横向き4段以上）を、助走から抱え込み跳び
（発展技）

オ 本時の流れ

【つかむ・見通す段階】

本時の学習の課題を確認し、自分なりの活動のめあてをもつ。

| | | |
|---------------------|-----------------------|---------------------|
| | | |
| <p>学習の進め方・約束を確認</p> | <p>前時までに発見したコツを整理</p> | <p>本時の自分のめあてを設定</p> |

「名山トレーニング」で、技に必要な基礎感覚づくりをする。

- 中心技を習得するために必要な基礎感覚が身に付く運動を選定する。
- 運動量を十分確保するとともに無駄なく動くことができるように組み合わせる。

| | | | |
|---|--|--|---|
| | | | |
| <p>【かえるの足打ち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 腕支持感覚 腰の位置を高く上げ、足打ちの回数を増やすようにする。 | <p>【馬跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体重移動感覚 腕で体を支持しながら、体重を移動させ、決まった時間に多くの回数跳べるようにする。 | <p>【ケンパー跳び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 踏み切り感覚 リズムよくケンパー跳びやケンゲー跳びをし、両足で踏み切ることを身に付けさせる。 | <p>【マットへの跳び込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体の投げ出し感覚 両足で踏み切って、跳び箱の奥に着手する感覚を身に付けます。遠くに跳ぶための目印をつけるとよい。 |

【ためす・挑戦する段階】

「スキルアップタイム」で、今できる技を楽しみながら、より上手にできるようにする。

- ・ 現在の技能を発揮して、その種目の特性にふれる。(できる技に取り組む)
- ・ 学習内容は基本的なものにして、解決の手順・方法も広げずじっくり取り組ませる。

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>コツを確認しながら練習</p> | <p>技能に応じた場を選択 (横置き)</p> | <p>友だち同士で認め合い</p> |

「学び合いタイム」で、コツの共有や認め合いをする。

- ・ 発見したコツを発表や試技を通して共有し、レベルアップタイムに生かせるようにする。
- ・ 友だちとの認め合い (励まし、賞賛、助言、注意等) の場とする。

| | | |
|--|---|--|
|  |  |  |
| <p>試技を見てコツを確認</p> | <p>技能が高まった児童を賞賛</p> | <p>動画を使ってコツを確認</p> |

「レベルアップタイム」で、自分の思いや願いに応じて技を選択し、練習の方法や場を考え、より技能を高める。

- ・ 創意、工夫、努力によって、その種目の特性にふれる。できる技をよりよくしたり、できそうな技に取り組んだりする。
- ・ 学習内容に幅をもたせ、意欲を大切に、多様な活動を通して解決を図る学習をする。

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>自分たちで練習の場を工夫</p> | <p>友だちのよさを参考にして練習</p> | <p>積極的にアドバイス</p> |

【まとめる段階】

本時の学習を振り返り、次時の学習のめあてをもつ。小学生の体育への記入、がんばったことの発表・賞賛をする。

- ・ めあてを達成できた児童への賞賛や努力の跡が見られる児童への励ましをし、次時のへの意欲付けを図る。
- ・ 自分のめあてに対するできばえを自己評価したり、本時の学習の振り返りをしたりして、次時への活動のめあてをもたせるようにする。

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| レベルアップできた子どもの発表 | お互いによさの認め合い | 本時の学習の振り返り |

8 成果と課題

(1) 成果

ア 器械運動の特性や小学校期において培うことの大切な各種運動感覚を考慮し、多くの動きや技の中から、本校で取り組む中心技を設定することは、指導内容を精選し、児童への助言や補助を適宜行えるようになった。また、学習の場を無駄なくつくることができ、運動量の確保にもつながり有効に働いた。

イ 児童の意識のつながりを考慮し、楽しさや喜びを味わうことのできる授業づくりを行ったことは、児童が運動の特性や美しさに迫ろうとする意識が芽生え、自分なりの目標を設定し、自分の課題解決に夢中になる姿を生み出した。また、課題解決を図る中で、意図的に児童同士のかかわりをもたせることで、ともに励まし合い、お互いによりよくなろうとする態度が以前より多く見られるようになり、身体能力を高める上で有効に働いた。

ウ 教師自身が体育の学習の進め方が分かり、自信をもって授業を進めることができるようになった。

(2) 課題

ア 児童の技や動きに対する「できた。」という意識の中には、技として不十分な部分が見られた。どのような動きができれば十分な技であるかの基準をもつ必要がある。また、その基準に応じた練習法や助言の仕方を明確にしていく必要がある。

イ 器械運動領域に絞って研究を進めてきたが、他領域の運動の特性や必要な感覚を洗い出し、児童の意識のつながりを考慮した学習の進め方を検討する必要がある。